

| | | |
|-----------------|--|-----------|
| 科目名：解剖生理学Ⅰ | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（15時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：稲垣 昌博 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 身体の構造を理解する。 2. 各器官系統の持つ働きを理解する。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 人体の構造、生命現象（エネルギー、細胞、骨格等） 3. 4. 各器官の役割、細胞の構造と役割 5. 6. 細胞の構造と機能、細胞の増殖と遺伝子、細胞組織 7. 対応 生体の機能、ホメオスタシス、自律神経系 8. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：解剖生理学Ⅱ | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：久保川 利哉 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命現象の基本としての認識の上に呼吸循環の働きについて両者を関連づけて理解する。 2. 体温の調節について理解する。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1～4. 循環器の解剖生理（心臓の構造、血液循環、心臓と心周期、冠状動脈） 5. 心電図 6～8. 血管系（動脈、静脈、毛細血管、血圧） 9～11. 呼吸器の概要と構造、機能 12. 呼吸筋の働き（横隔膜、内・外肋間筋） 13. 呼吸調節（呼吸中枢、中枢・末梢化学受容体、CO₂ナルコーシス） 14. 呼吸機能検査（スパイロメトリー、肺活量、残気量等） 15. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：解剖生理学Ⅲ | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：中西 孝子 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 消化・吸収の仕組みについて理解する。</p> | |
| 授業の計画 | <p>1. 2. 口腔の構造と機能、咽頭・食道の構造と機能</p> <p>3. 胃の構造と機能</p> <p>4. 小腸の構造と機能</p> <p>5. 栄養素の消化と吸収</p> <p>6. 7. 8. 糖質・タンパク質・脂質の代謝</p> <p>9. 10. 大腸の構造と機能、腸内細菌</p> <p>11. 脾臓・膵臓・胆嚢の構造と機能</p> <p>12. 腹膜</p> <p>13. 消化器系と自律神経</p> <p>14. まとめ</p> <p>15. 試験</p> | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：解剖生理学Ⅳ | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：佐々木 順承 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 調節機能について理解する。 2. 排泄の構造と機能について理解する。 3. 性と生殖に関する機構について理解する。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1～6. 体液の調整と尿の生成 腎臓の構造と機能、濾過状態、体液、血圧、濾過機能、電解質、酸塩基平衡、ホルモン 7～10. 生体の防御機構 液性・細胞性免疫、皮膚、抗体、オプソニン効果等 11～14. 内臓機能の調節 自律神経、内分泌系、各種ホルモン（視床下部・下垂体・甲状腺・膵・副腎皮質・副腎髄質・男性・女性） 15. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|------------------|--|--------------|
| 科目名：解剖生理学V | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期・後期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：久保川 利哉 ・甘井 努 | 実務経験のある教員による授業 □ | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>人間の健康や疾患の理解に必要な人体の構造、生命を保つために必要な機能に関して学ぶことを目的とする。</p> <p>人間は生命を維持し、活動するために身体のさまざまな機能を駆使している。また、それらの機能は生命を維持するために一定の基準の中で、自らの機能を調整し身体機能を一定に保とうとしている。このようなひとつひとつの機能を正しく理解し、働きかけることが、健康の維持・回復、ひいては生命を尊ぶ気持ちへとつながると考える。</p> <p>看護において生命維持の機能が正常に保たれるにはどのような機能を調整すればいいのかを学ぶことで看護に必要な観察力・判断力を養う基礎知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中枢神経・末梢神経それぞれの構造と仕組みについて理解する。 2. 外界刺激を受容する仕組みを理解する。 3. 各刺激に応じた反応の仕組みを理解する。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 骨・筋肉系の総論、骨・関節の構造と働き（機能） 2～4. 骨格系（頭部、首、背中、胸部、上肢、開始、骨盤） 5. 筋肉系（骨格筋、筋の名称） 6. 7. 筋肉系各論（頭、顔、上肢、胸部、下肢、体幹） 8. 試験 9. ニューロン、グリア、伝道と伝達、神経伝達物質、神経系の構造 10. 中枢神経の外概、脊髄の構造と機能 11. 小脳、脳幹、大脳皮質、脳室等 12. 間脳、小脳、基底膜、辺縁系、脳室等 13. 脳波、睡眠、概日リズム、意識障害等 14. 錐体路、感覚機能等 まとめ 15. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|------------------|--|-----------|
| 科目名：成長・発達・加齢の生理学 | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（15時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：久保川 利哉 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】 解剖生理Ⅰ～Ⅴで教授された身体の構造や各器官のもつ働きについて、成長・発達・老化による構造的、生理的機能の変化に着目する。 小児看護学や老年看護学の対象理解をスムーズにするための基礎となる。</p> <p>【目標】 1. こどもの発育に伴う各器官の生理学的、解剖学的特徴を理解する。 2. 高齢者の生理学的、解剖学的特徴を理解する。</p> | |
| 授業の計画 | <p>1. 成長・発達・加齢の生理学小児と成人の解剖・生理学的違い 老化のメカニズム</p> <p>2. 高齢者と成人の解剖・生理学的違い</p> <p>3. 4 小児と成人の解剖・生理学的違い</p> <p>5. 6. 高齢者と成人の解剖・生理学的違い</p> <p>7. フレイル、サルコペニア</p> <p>8. 試験</p> | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院 e テキスト 系統看護学講座 専門分野 小児看護学 [2] 小児臨床看護各論 医学書院 e テキスト 系統看護学講座 専門分野 老年看護病態・疾患編 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|------------------|--|--------------|
| 科目名：生化学 | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期・後期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：佐々木 順承・天野 陽子 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>生命の基本単位としての細胞生体を構成している物質の種類や構造を理解することで生命現象を可能にしている生体内の化学変化を理解させておくことは臨床で検査値を理解する上で重要である。生化学を学ぶことで対象の病態を理解する基礎的知識を身につける。さらに日常看護で役立つ一般的な臨床検査の基礎知識を得ることで対象の観察から疾患の診断や治療回復を予測し、看護計画の良否を判断できる知識を身につける。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人体の構成部分である化学物質の性状、その分布や代謝について理解する。 2. 臨床検査の基礎知識を理解する。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 糖質の代謝 3. 4. 蛋白代謝、脂質代謝 5. 6. 糖代、エネルギー代謝 7. 8. ビリルビン代謝、アルコール・アンモニア・薬剤（解毒） 9. 10. 〃 11. 試験 12. 13. 臨床検査の役割・種類・流れ、一般検査、尿検査、便検査、血液検査、化学検査 14. 免疫・血清学的検査、内分泌検査、微生物学的検査、病理検査、生体検査 15. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [2] 生化学 医学書院 eテキスト 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：微生物学 | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：竹内 修 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>感染症や伝染病の要因として、重要な位置を占めている病原微生物の分類や特徴、感染予防対策について理解する。感染症の治療における化学療法と病原体の薬剤耐性、薬物の副作用などに関する基礎的知識を習得する。また、各種化学療法剤の作用機序を理解する。現在多数の化学療法剤が感染症治療のために臨床応用されているが、なお、感染症は医学上解決すべき重要な課題のひとつである。そこで感染症の現状と問題点を把握し、感染症の予防対策についても理解を深める。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物の感染により、生体に起こる影響を理解する。 2. 病原微生物の種類と特徴を理解する。 3. 感染予防に必要な基礎的知識が身につけられる。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 微生物学の歴史、近代医学 2. 微生物学の歴史、微生物の生物学的基本構造（細菌・ウイルス・真菌） 3. 4. 感染に対する生体防御機構（自然免疫と獲得免疫） 5. 感染と感染症（新興・再興感染症、人獣共通感染症、感染経路） 6. スタンダードプリコーション、法律による感染対策 7. 感染症の治療 8. 病原性細菌の各論 9. 10. ウイルス各論 11. プリオン病、病原真菌 12. 寄生虫と衛生動物 13. 感染経路別対策 14. 国家試験問題・まとめ 15. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 出席回数、試験、およびレポート等により総合的に評価する。 | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[4] 微生物学 医学書院eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-------------------|---|------------|
| 科目名：疾病論 I | 配当年次 1 年 | 開講時期 1 年後期 |
| 単位・時間：1 単位（15 時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：三井 大輔 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 疾病の原因や成り立ち、経過、転帰など疾病の本体を形態・機能の両面から総論的に理解する。</p> | |
| 授業の計画 | <p>1. 2. 外因・内因、病理診断、生検、萎縮、肥大、壊死、変性等</p> <p>3. 4. 炎症、肉芽組織、創傷治癒、炎症の各型、免疫応答、アレルギー</p> <p>5. 6 アレルギー、自己免疫疾患、SLE、循環障害、血栓・塞栓・梗塞、側副循環</p> <p>7. 対 ショック、代謝障害、先天異常、遺伝性疾患、染色体異常</p> <p>対応 腫瘍、悪性腫瘍、分類、腫瘍マーカー等</p> <p>8. 試験</p> | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> <p>わかりやすい病理学 (廣川書店)</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---------------------------------------|--|------------------------------|----|---------|----------------------|----|-----|----|------|----|------------|----|--------|----|---------|------------------------|----|-----------------|----|-------|----|-------|-----|----------|-----|----------|-----------------------------|-----|------------|-----|--------------|-----|------------------------------|-----|------------|--|--|----|
| 科目名：疾病論Ⅱ | 配当年次1年 | 開講時期 1年後期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者：由良 明彦・伊利 元・川野 太郎 実務経験のある教員による授業 □ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>【講義内容】</p> <p>医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 呼吸器系・循環器系・血液造血器系に疾病を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の計画 | <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td rowspan="5">呼吸機能の障害</td> <td>呼吸器系の構造と機能、症状とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>感染症</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>換気障害</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>肺がん、その他肺疾患</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>まとめ・試験</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td rowspan="5">循環機能の障害</td> <td>循環器の構造と機能、症状とその病態生理、検査</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>症状とその病態生理、検査と治療</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>検査と治療</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>疾患の理解</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>疾患の理解、試験</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td rowspan="5">造血諸機能の障害</td> <td>血液の機能と造血の仕組み、症状・身体所見とその病態生理</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>検査と治療・輸血療法</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>疾患の理解（血球の異常）</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>免疫のしくみとアレルギー、診断・検査・治療、自己免疫疾患</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>自己免疫疾患、感染症</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>試験</td> </tr> </table> | | 1. | 呼吸機能の障害 | 呼吸器系の構造と機能、症状とその病態生理 | 2. | 感染症 | 3. | 換気障害 | 4. | 肺がん、その他肺疾患 | 5. | まとめ・試験 | 6. | 循環機能の障害 | 循環器の構造と機能、症状とその病態生理、検査 | 7. | 症状とその病態生理、検査と治療 | 8. | 検査と治療 | 9. | 疾患の理解 | 10. | 疾患の理解、試験 | 11. | 造血諸機能の障害 | 血液の機能と造血の仕組み、症状・身体所見とその病態生理 | 12. | 検査と治療・輸血療法 | 13. | 疾患の理解（血球の異常） | 14. | 免疫のしくみとアレルギー、診断・検査・治療、自己免疫疾患 | 15. | 自己免疫疾患、感染症 | | | 試験 |
| 1. | 呼吸機能の障害 | 呼吸器系の構造と機能、症状とその病態生理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. | | 感染症 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. | | 換気障害 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. | | 肺がん、その他肺疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. | | まとめ・試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. | 循環機能の障害 | 循環器の構造と機能、症状とその病態生理、検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. | | 症状とその病態生理、検査と治療 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. | | 検査と治療 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. | | 疾患の理解 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. | | 疾患の理解、試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. | 造血諸機能の障害 | 血液の機能と造血の仕組み、症状・身体所見とその病態生理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. | | 検査と治療・輸血療法 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13. | | 疾患の理解（血球の異常） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14. | | 免疫のしくみとアレルギー、診断・検査・治療、自己免疫疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15. | | 自己免疫疾患、感染症 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| | | 試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 医学書院 eテキスト</p> <p>[2] 呼吸器 [3] 循環器 [4] 血液・造血器 [11] アレルギー 膠原病 感染症</p> <p>【参考文献】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----------------|---|------------------------|----|--------|---------------------|----|--------------|----|--------|----|------|----|-------------|----|---------------------|----|------------------------|----|--------|----|---------|--|-----|----------------|-----|-----------------------|--------|-------------------|-----|----|
| 科目名：疾病論Ⅲ | 配当年次 2年 | 開講時期 2年前期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者：・安原 章浩 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 消化器系、内分泌・代謝系、自己免疫疾患を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の計画 | <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td rowspan="8">消化器系障害</td> <td>食道の解剖、食道疾患（悪性・良性疾患）</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>胃の解剖、胃がん、胃潰瘍</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>大腸良性疾患</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>大腸がん</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>肝炎、肝硬変、肝細胞癌</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>胆管・膵管・肝臓の解剖、胆石・胆のう炎</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、急性・慢性膵炎</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>まとめ、試験</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td rowspan="5">内分泌代謝障害</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>内分泌代謝・器官の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>自己免疫機能障害 症状とその病態生理、検査</td> </tr> <tr> <td>12～14.</td> <td>疾患の理解（内分泌疾患、代謝疾患）</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>試験</td> </tr> </table> | | 1. | 消化器系障害 | 食道の解剖、食道疾患（悪性・良性疾患） | 2. | 胃の解剖、胃がん、胃潰瘍 | 3. | 大腸良性疾患 | 4. | 大腸がん | 5. | 肝炎、肝硬変、肝細胞癌 | 6. | 胆管・膵管・肝臓の解剖、胆石・胆のう炎 | 7. | 胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、急性・慢性膵炎 | 8. | まとめ、試験 | 9. | 内分泌代謝障害 | | 10. | 内分泌代謝・器官の構造と機能 | 11. | 自己免疫機能障害 症状とその病態生理、検査 | 12～14. | 疾患の理解（内分泌疾患、代謝疾患） | 15. | 試験 |
| 1. | 消化器系障害 | 食道の解剖、食道疾患（悪性・良性疾患） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. | | 胃の解剖、胃がん、胃潰瘍 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. | | 大腸良性疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. | | 大腸がん | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. | | 肝炎、肝硬変、肝細胞癌 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. | | 胆管・膵管・肝臓の解剖、胆石・胆のう炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. | | 胆嚢がん、胆管がん、膵臓がん、急性・慢性膵炎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. | | まとめ、試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. | 内分泌代謝障害 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. | | 内分泌代謝・器官の構造と機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. | | 自己免疫機能障害 症状とその病態生理、検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12～14. | | 疾患の理解（内分泌疾患、代謝疾患） | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15. | | 試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 eテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|------------------------------|--------------|---|-------|----|-----------|----|-----------|--------------|----|----------------|----|------------------------------|----|----------------|----|--------|----|---|------------|----|----------|-----|--------------|-----|--------|-------------|-----|-----------|-----|-------------|-----|-------------|-----|----|
| 科目名：疾病論Ⅳ | 配当年次 2年 | 開講時期 2年前期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者：立川 太一・井伊 聡樹・金子 昇・石井 正明・飯田 雅文・加藤 雅也 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 脳神経系、運動器系に疾病を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の計画 | <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td rowspan="7">}</td> <td>脳卒中総論</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>外傷、水頭症、検査</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>脳・脳神経機能障害</td> <td>脳腫瘍、てんかん、認知症</td> </tr> <tr> <td>4.</td> <td>変性疾患、炎症性疾患、筋疾患</td> </tr> <tr> <td>5.</td> <td>リハビリテーション、錐体路・錐体外路障害、機能脳神経外科</td> </tr> <tr> <td>6.</td> <td>高次脳機能障害、国家試験問題</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>まとめ/試験</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td rowspan="8">}</td> <td>骨、関節、神経の基礎</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td>関節の痛みと変形</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>整形外科特有の診察と治療</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>運動機能障害</td> <td>上下肢の疾患、脊椎疾患</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td>手術療法、義肢装具</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>骨折、脱臼、炎症性疾患</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>骨系統疾患、先天性疾患</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td>試験</td> </tr> </table> | | 1. | } | 脳卒中総論 | 2. | 外傷、水頭症、検査 | 3. | 脳・脳神経機能障害 | 脳腫瘍、てんかん、認知症 | 4. | 変性疾患、炎症性疾患、筋疾患 | 5. | リハビリテーション、錐体路・錐体外路障害、機能脳神経外科 | 6. | 高次脳機能障害、国家試験問題 | 7. | まとめ/試験 | 8. | } | 骨、関節、神経の基礎 | 9. | 関節の痛みと変形 | 10. | 整形外科特有の診察と治療 | 11. | 運動機能障害 | 上下肢の疾患、脊椎疾患 | 12. | 手術療法、義肢装具 | 13. | 骨折、脱臼、炎症性疾患 | 14. | 骨系統疾患、先天性疾患 | 15. | 試験 |
| 1. | } | 脳卒中総論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. | | 外傷、水頭症、検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. | | 脳・脳神経機能障害 | 脳腫瘍、てんかん、認知症 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. | | 変性疾患、炎症性疾患、筋疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. | | リハビリテーション、錐体路・錐体外路障害、機能脳神経外科 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. | | 高次脳機能障害、国家試験問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. | | まとめ/試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. | } | 骨、関節、神経の基礎 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. | | 関節の痛みと変形 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. | | 整形外科特有の診察と治療 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. | | 運動機能障害 | 上下肢の疾患、脊椎疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. | | 手術療法、義肢装具 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13. | | 骨折、脱臼、炎症性疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14. | | 骨系統疾患、先天性疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15. | | 試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 eテキスト 系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [10] 運動器 医学書院 eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|---|---|-----------------------------------|----|-------|----------|----|--------------------|----|----------|------|---------------------|----|----|----|-------------|----|-------|-------------|-----|----|-----|-------|-----|-----|-----------------------------------|-----|----------|-----|-----------|-----|--|----|
| 科目名：疾病論V | 配当年次 2年 | 開講時期 2年前期 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 担当者：壽美 周平・福田 宏史・高野 隆行・井上 準・小林 圭介 実務経験のある教員による授業 □ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業概要 | <p>【講義内容】</p> <p>医療チームの一端を担う専門職として、健康障害の種類とその経過および回復過程について理解することは看護を展開する上で重要な要素である。</p> <p>対象の健康障害の現象(疾病・障害等)に着目して、その疾病構造を基礎知識とした看護上の判断ができること、看護ケアの根拠となることを目的とする。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 腎・泌尿器系、女性生殖器系、感覚器系に疾病を持つ患者のアセスメントができる基礎的知識を習得し、治療の方法を理解する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 授業の計画 | <table border="0"> <tr> <td>1.</td> <td rowspan="6">腎・泌尿器</td> <td>腎臓の解剖・生理</td> </tr> <tr> <td>2.</td> <td>症状と病態生理、腎泌尿器に関する検査</td> </tr> <tr> <td>3.</td> <td>検査と治療・処置</td> </tr> <tr> <td>4～6.</td> <td>検査と治療・処置、疾患の理解/演習問題</td> </tr> <tr> <td>7.</td> <td>試験</td> </tr> <tr> <td>8.</td> <td>女性生殖器の構造と機能</td> </tr> <tr> <td>9.</td> <td rowspan="3">女性生殖器</td> <td>診察・検査と治療、処置</td> </tr> <tr> <td>10.</td> <td>各論</td> </tr> <tr> <td>11.</td> <td>各論/試験</td> </tr> <tr> <td>12.</td> <td rowspan="3">感覚器</td> <td>眼解剖生理、結膜炎、角膜炎、白内障、加齢性黄斑、視覚障害者の看護等</td> </tr> <tr> <td>13.</td> <td>耳鼻科の救急疾患</td> </tr> <tr> <td>14.</td> <td>皮膚科 総論・各論</td> </tr> <tr> <td>15.</td> <td></td> <td>試験</td> </tr> </table> | | 1. | 腎・泌尿器 | 腎臓の解剖・生理 | 2. | 症状と病態生理、腎泌尿器に関する検査 | 3. | 検査と治療・処置 | 4～6. | 検査と治療・処置、疾患の理解/演習問題 | 7. | 試験 | 8. | 女性生殖器の構造と機能 | 9. | 女性生殖器 | 診察・検査と治療、処置 | 10. | 各論 | 11. | 各論/試験 | 12. | 感覚器 | 眼解剖生理、結膜炎、角膜炎、白内障、加齢性黄斑、視覚障害者の看護等 | 13. | 耳鼻科の救急疾患 | 14. | 皮膚科 総論・各論 | 15. | | 試験 |
| 1. | 腎・泌尿器 | 腎臓の解剖・生理 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. | | 症状と病態生理、腎泌尿器に関する検査 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. | | 検査と治療・処置 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4～6. | | 検査と治療・処置、疾患の理解/演習問題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. | | 試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. | | 女性生殖器の構造と機能 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. | 女性生殖器 | 診察・検査と治療、処置 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10. | | 各論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11. | | 各論/試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 12. | 感覚器 | 眼解剖生理、結膜炎、角膜炎、白内障、加齢性黄斑、視覚障害者の看護等 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13. | | 耳鼻科の救急疾患 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 14. | | 皮膚科 総論・各論 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 15. | | 試験 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験、レポート課題 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [8] 腎・泌尿器 医学書院eテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院eテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院eテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [13] 眼 医学書院eテキスト</p> <p>系統看護学講座 専門分野 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院eテキスト</p> <p>【参考文献】</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 履修上の注意事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：薬理学 | 配当年次1年 | 開講時期 1年後期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：稲垣 昌博・由良 明彦 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>看護において、薬理学の知識は誤薬の防止、治療効果のアセスメント、有害作用の早期発見と予防、さらには、在宅療養者が増える中、服薬治療に関する患者・家族への指導説明は必須である。そのために薬理学を通じて化学物質と生体の相互作用を理解させることをねらいとする。</p> <p>代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理について学び、治療における患者への適切な教育指導、観察等の能力高めるとともに、与薬に携わる看護師の薬物治療に関する知識を上げることで看護師自身に起因する薬物有害事象を防止する能力を身につけ実践の場で知識に基づいて正確に薬物を取り扱える薬物治療における看護の役割を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <p>1. 薬理作用の基礎知識に基づき、主な薬物の特徴、作用機序、人体の影響および薬物の管理について理解する。</p> | |
| 授業の計画 | <p>1. 2 薬理学総論（分類・目的、レセプター、アゴニスト、ADME等）</p> <p>3. 4 抗感染症薬、抗がん剤の作用機序・副作用・分類・併用</p> <p>5. 6 中枢神経系作用薬の作用機序・副作用</p> <p>7 腎作用薬の作用機序・副作用、消毒薬の作用スペクトル</p> <p>8 試験</p> <p>9. 10 末梢神経作用薬、循環器系作用薬</p> <p>11. 12 呼吸器・消化器・生殖器系作用薬、物質代謝作用薬</p> <p>13. 14 免疫治療薬、抗アレルギー・抗炎症薬</p> <p>15 まとめ</p> <p>16 試験</p> | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：臨床薬理学 | 配当年次 2年 | 開講時期 2年後期 |
| 単位・時間：1単位（15時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：稲垣 昌博・由良 明彦 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>看護において、臨床薬理学の知識は誤薬の防止、治療効果のアセスメント、有害作用の早期発見と予防、さらには、在宅療養が増える中、服薬治療に関する患者・家族への指導説明は必須である。そのために臨床薬理学を通じて化学物質と生体の相互作用を理解させることをねらいとする。</p> <p>そして代表的な薬物の作用機序、特徴、副作用、薬物の取り扱いや管理について学び、治療における患者への適切な教育指導、観察等の能力高めるとともに、与薬に携わる看護師の薬物治療に関する知識を上げることで看護師自身に起因する薬物有害事象を防止する能力を身につけ実践の場で知識に基づいて正確に薬物を取り扱える薬物治療における看護の役割を学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 臨床につながる実用的な薬物治療について理解する。 2. 薬物治療における看護の役割と薬物管理と患者指導を理解する。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 薬物治療の基礎、ADME、血中濃度への影響・評価 3. 4. 対症療法薬の各論（鎮痛薬・制吐薬・鎮咳去痰・鎮静・便秘下痢・睡眠等） 5. 6. 副腎皮質ステロイド薬、主要疾患の臨床薬理学 7. 8. 全身状態の管理に関わる臨床薬理学/まとめ <p>対応 試験</p> | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 e テキスト</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進 [3] 薬理学 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|--|--|-----------|
| 科目名：診断治療論Ⅰ | 配当年次 2年 | 開講時期 2年前期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：伏原 豪司・関根 勝・星原 政吉・平 豊文 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | | |
| 授業概要 目的・到達目標 | 【講義内容】 看護は対象の健康回復にかかわる。疾病の診断治療において放射線療法／手術療法・麻酔療法／心肺蘇生法のそれぞれについて理解することで、その知識を看護を展開する上で活用する。 【目標】 1. 疾病の回復を促進する各治療の原理を理解する。 | |
| 授業の計画 | 1. 画像診断と看護、X線診断、CT 2. 臨床放射線医学 MRI、超音波、核医学検査 3. IVR、血管造影、放射線治療総論、放射線治療と看護、放射線による障害と防護 4. 放射線治療各論/試験 5. 麻酔（麻酔、局麻、前投薬） 6. 創傷治癒、褥瘡、胃管チューブ 7. 手術療法・外科療法 院内感染予防、感染経路別予防策、ドレーン管理、消毒と滅菌 8. 試験 9. 外科医療の基礎 10. 呼吸・体液・栄養管理、輸血 11. 救急看護の基礎 12. 医療機器（生体検査、正しい検査、安全） 13. 診断機器（心電図） 14. モニタ実習（心電図） 15. 治療器（心臓ペースメーカー、除細動器）/まとめ 対応 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | 【教科書】 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論 医学書院 e テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院 e テキスト 系統看護学講座 別巻 臨床放射線医学 医学書院 e テキスト 医療機器 配布資料 【参考文献】 初めての手術看護 ドレーン&チューブ管理マニュアル 永井秀雄 学研 | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|--|-----------|
| 科目名：診断治療論Ⅱ | 配当年次1年 | 開講時期 1年後期 |
| 単位・時間：1単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：坂本 香織・森田 靖章 | 実務経験のある教員による授業 □ | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】 看護は対象の健康回復にかかわる。疾病の診断治療において栄養の意義と病態栄養／リハビリテーションのそれぞれについて理解することで、その知識を看護を展開する上で活用する。</p> <p>【目標】 1. 健康にとっての栄養の意義と病態栄養について理解する。 2. リハビリテーションの概念とリハビリテーション技術を学ぶ。</p> | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 疾病と栄養・食生活 2. 栄養アセスメント、食事摂取基準 3. 食事摂取基準、エネルギー消費について（塩分、たんぱく質チェック表） 4. 貧血と栄養食事療法 5. 6. 肥満・メタボ・糖尿病の食事療法（食事記録日誌） 7. 8. 腎臓疾患の食事療法、食事バランスチェック 9. 10. 高齢期の栄養食事療法/まとめ 11. 12. 試験・解説/坂戸葉酸プロジェクト 13. リハビリテーション総論、看護の概論・対象、法制度等 14. リハビリテーション看護・実技（ROM、MMT） 15. 病期に応じたリハビリテーション/試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験および課題レポートから総合的に評価する。 | |
| テキスト | <p>【教科書】 続看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 医学書院 e テキスト 続看護学講座 別巻 栄養食事療法 医学書院 e テキスト 続看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：地域医療論 | 配当年次1年 | 開講時期 1年後期 |
| 単位・時間：1単位（15時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：川口 茂・小川 越史 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>当校は地域医療に貢献できる看護実践者の育成を目指している。ここでは、公衆衛生学・社会福祉の知識をもとに保健医療のあり方について課題を明確にしたうえで、当地区における生活者の実態を把握し、健康課題を明確にするとともに地域医療連携についての課題と展望を考察し、地域医療に貢献する医療職として役割を理解する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医の変遷から医療が果たしてきた役割と今後のあるべき将来像を理解できる。 2. 医療保健福祉介護に関する経済的政策的課題が理解できる。 3. 当地区における地域医療推進連携事業の実際が理解できる。 | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 保健医療のあり方（医学史・地域医療体制の現状） 2. 保険診療について 3. 医療上の問題点、医の倫理 4～7. ACPと地域医療 8. 筆記試験、まとめ | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 別巻 総合医療論 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|-----------|
| 科目名：公衆衛生 | 配当年次1年 | 開講時期 1年前期 |
| 単位・時間：1単位（15時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：内田 博之・古谷 牧子 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】 公衆衛生や保健活動など、疾病予防と人々の健康を保持増進させていくための具体的内容を学ぶ学問である。 環境生成の改善が公衆衛生の本質であり、健康は一人で守れないという視点で人々の健康について考える。</p> <p>【目標】 1. 公衆衛生に関連する統計情報・組織的保健活動について理解する。</p> | |
| 授業の計画 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生の概念、予防医学、健康増進、保健統計 2. 公衆衛生の場での疫学 3. 疫学統計、産業保健 4. 環境と健康・公害 5. 医療の動向と医療保障制度、母子保健 6. 感染対策、学校管理 7. 難病保健、精神保健、地域保健 8. まとめ、筆記試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [2] 公衆衛生 医学書院 e テキスト 国民衛生の動向 厚生統計協会</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|--|--------------|
| 科目名：社会福祉Ⅰ・Ⅱ | 配当年次 3年 | 開講時期 3年前期・後期 |
| 単位・時間：2単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：荒川 悟 | 実務経験のある教員による授業 <input type="checkbox"/> | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>看護活動において対象の健康問題に関連した社会的支援システムを理解し、保険・医療・福祉サービスが連携を持って援助するようにしたい。そのためには社会保障、福祉制度を理解するとともに、そこで働く職種と役割を理解するとともに、その一員としての役割を果たすことのできる能力を養う。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会福祉の理念と変遷を理解する。 2. 社会福祉の制度および援助方法を学ぶ。 3. 社会保障制度について理解する。 | |
| 授業の計画 | <p>～Ⅰ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会保障制度と社会福祉 2. 現代社会の変化と社会保障、社会福祉の動向 3. 4. 医療保障 5. 6. 介護保障 7. まとめ 8. 試験 <p>～Ⅱ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 2. 所得保障（所得保障制度、年金保険制度、社会手当、労働保険） 3. 4. 公的扶助（生活保護制度、低所得者対策） 5. 6. 社会福祉の分野とサービス（高齢者・障害者・児童家庭福祉）と虐待 社会福祉実践と医療・看護 7. まとめ 8. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [3] 社会保障・社会福祉 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |

| | | |
|-----------------|---|--------------|
| 科目名：関係法規Ⅰ・Ⅱ | 配当年次 3年 | 開講時期 3年前期・後期 |
| 単位・時間：2単位（30時間） | 授業の方法：講義 | |
| 担当者：林 真由美 | 実務経験のある教員による授業 □ | |
| 授業概要 目的・到達目標 | <p>【講義内容】</p> <p>医事法の理念を理解するとともに、健康の保持増進とこれにかかわる人々に関する法律を知ることにより看護の果たす役割を考える。また、医療におけるトピックスを取り上げ社会的価値判断と法的解釈のありようを解説することで、看護の果たす法的責任について考えることができる。ここでは法規に全体的解釈と単に知識としてではなく日常生活や事例を通していっそうの理解を深めるようにする。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師として必要な医事法の知識を理解する。 2. 医療事故や医療過誤を予防するための基礎知識を習得する。 | |
| 授業の計画 | <p>～Ⅰ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～3. 法の概念、看護法 保健師助産師看護師法（守秘義務・医療過誤、罰則等） 4. 5. 人材確保法、医事法、医療法、医師法、臓器移植法、地域保健法 6. 健康増進法、精神保健福祉法 7. 精神保健福祉法、母子保健法、母体保護法 8. 試験 <p>～Ⅱ～</p> <ol style="list-style-type: none"> 1～3. 社会保障法（健康保険法、国民健康保険法、高齢者医療確保法、介護保険法、年金） 4. 5. 社会福祉法、生活保護法、民生委員法、民法、児童福祉法、母子福祉法、老人福祉法、障害者基本法、総合支援法、身体・知的・発達障害者福祉法 6. 7. 労働基準法、労働契約法、労働安全衛生法、労働災害保険法、育介休業法、DV防止法、個人情報保護法 8. 試験 | |
| 成績評価の方法・基準 | 筆記試験 100% | |
| テキスト | <p>【教科書】</p> <p>系統的看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度 [4] 看護関係法令 医学書院 e テキスト</p> <p>【参考文献】</p> | |
| 履修上の注意事項 | | |